

# (公財) 滋賀県産業支援プラザ あなたの夢をサポートします！ 創業支援 NewsLetter 2017.7月号

(公財)滋賀県産業支援プラザではコラボしが21インキュベーション(創業準備オフィス、創業オフィス)、草津 SOHO ビジネスオフィス、米原 SOHO ビジネスオフィス、滋賀県立テクノファクトリーを運営しています。創業や新技術開発など、インキュベーション・マネジャー(IM)による成長段階に応じた支援を行っています。

創業をお考えの方は、(公財) 滋賀県産業支援プラザ 創業支援課まで 077-511-1412

## ■ しが新事業応援ファンド助成金交付事業 募集説明会を開催

5月17日(水)ピアザ淡海において、しが新事業応援ファンド助成金交付事業の平成29年第2回募集にかかる説明会(大津会場)を開催しました。

今回、募集分で初めての説明会として開催したところ16名の参加者があり、はじめにファンド実施事業者である「株式会社しがのええもんや」代表取締役井上修司氏からの事例発表をいただき、続けてプラザからのファンド事業概要説明の後、支援機関(滋賀県発明協会・日本政策金融公庫)からの施策説明をいただきました。

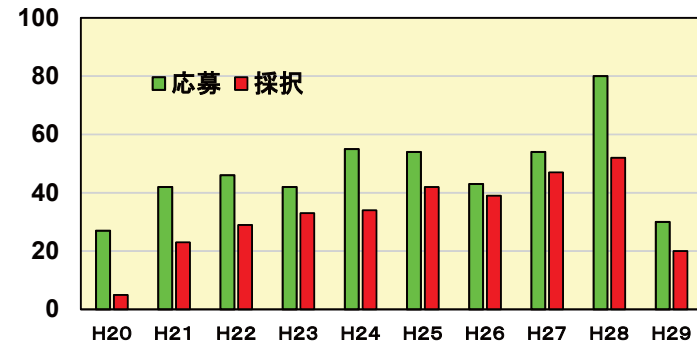
説明終了後には、参加者から各担当者に対して活発な質問や相談があり、会場の使用時間ぎりぎりとなったためやむなく打ち切り、続きは他の説明会会場や個別相談会、プラザを訪問していただいていた相談を案内するなどの盛況ぶりでした。



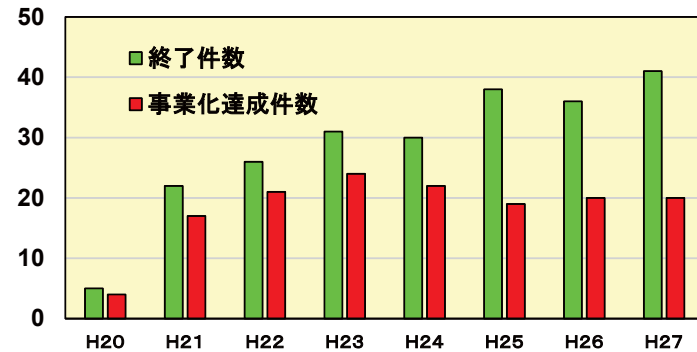
ファンド説明会(大津会場)事例発表

本事業については平成30年で終了することから、残りの募集は今回(7月23日〆切)と次回(平成30年1月19日〆切予定)の2回となっています。

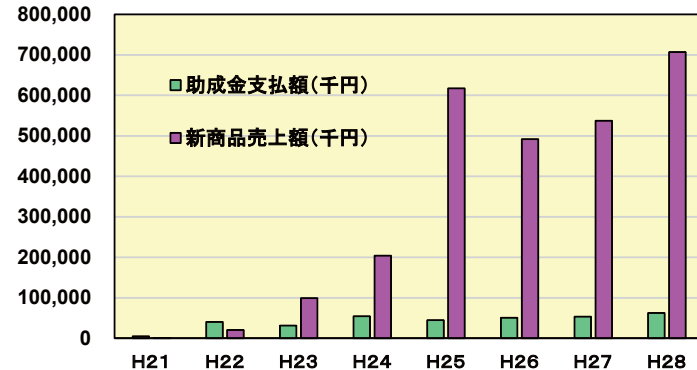
これまでの応募および採択状況は、応募累計473件・採択件数324件、採択率68%となっており、審査会に提出する申請書類のブラッシュアップを事務局で強力に実施することにより、採択率が近年上昇しています。



これまでの事業化達成については、終了したのは229件、新商品売上に結び付いたのは147件で事業化達成率は64%となっており、開発終了後、売上が立つまでには若干時間がかかる傾向となっています。



新商品売上高では助成金支払累計で3.4億円、新商品売上累計は26.8億円で事業効果は7.8倍!!となっています。



本補助金事業は、補助金申請の入門編としても適していると言え、他の県補助金や国補助金の活用へのステップアップにもつながりますので、ぜひ、応募を検討していただきたいと思ひます。

## ■ 草津 SOHO ランチミーティング

平成29年5月度の草津 SOHO ランチミーティングは、株式会社ブルータス・コンサルティングのエクゼグティブ・ダイレクター中川卓也様をお招きし、資本政策の基礎をレクチャーしていただきました。

ブルータス・コンサルティングは2015年トヨタ自動車の企業価値算定作業や東京地方裁判所におけるカネボウの企業価値算定を行う等、日本を代表する企業の公正価値を算定するトップランナーです。今回は草津 SOHO でいずれ IPO か M&A を考えている入居者や卒業生を中心に10名が聴講しました。

講義のポイントとしては ①経営者の究極的目的は企業価値の増大 ②株券の機能は利益配分と議決権 ③株券シェアが66.7%なら独裁、50.1%なら安定、33.4%なら拒否権確保 ④VCより資金を導入するのは企業成長を加速させる事 ⑤ベンチャー企業における企業価値はビジネスプラン+資本政策で算定する ⑥VCから人を派遣すると十中八九事業は失敗する ⑦投資家の利害とオーナーの利害は相反する ⑧冷徹な資本の論理で物事は動く ⑨VCと対峙するには知識と胆力が必要 ⑩株券の種類株を駆使して会社のガバナンスを維持する事 ⑪株券算定の根拠、企業価値の公正評価をする事。税務署の調査に備えよ ⑫VCとの株券交渉は、最初はDCF計算で始まるが最後は鉛筆なめなめの交渉事である ⑬企業価値と企業の値段とは意味が違う。企業価値は計算事だが企業の値段は根源的なものである ⑭リスクのなかでも税務リスクが一番重要。この業界は性悪説で動いているので要注意である ⑮投資家は平均して年率20%で計算している。バイオ向けは年率100%で計算して交渉してくるものと覚悟の事 ⑯VCに株式の1/3渡すのは危険である。

最後に日本には起業家への尊敬の念がないのが問題である と締めくくって終了となりました。

## ※ 株式会社ブルータス・コンサルティング

所在地：東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビルディング30階

- 事業内容：
- ・ 上場会社及び非上場会社の株式、新株予約権、社債などの診断・査定
  - ・ 財務に関する調査(デューデリジェンス)
  - ・ 資本政策に関するコンサルティング
  - ・ 上記各号に付帯する一切の事業

## ■ 滋賀県立テクノファクトリー入居者紹介 株式会社 三次元メディア

平成29年6月より滋賀県立テクノファクトリーに入居されました、株式会社三次元メディア様をご紹介致します。

### 1. 沿革

同社は2000年12月に立命館大学の研究成果をベースに設立した立命館大学発のベンチャー企業です。2011年3月には世界初本格的3次元ロボットビジョンセンサ「TVS」を発売して以来、新市場創出をリードしてきており、自動車、電機、鉄鋼、食品等100社以上に導入し、国内3次元ロボットピッキング市場の約60%のシェアを占めております。

### 2. 産業用ロボットに「目」と「脳」の機能をもたせる

従来、工場の生産ラインで働くロボットは部品の移動や溶接、組み立て、加工などさまざまな役割を担っていますが、あらかじめ決められた位置情報に基づいて動く「腕」しかもっていませんでした。というのも、これまではどれだけ産業ロボットの導入で生産ラインを自動化されていても、ロボットには「目」や「脳」の機能がないため、ロボットに覚えさせた動きに合わせて部品が並んでいないと、誤作動をしてしまうからでした。

株式会社三次元メディアではこうした生産現場のニーズに着目し、産業ロボットに「目」と「脳」の機能を加えようと研究開発に取り組みました。それが世界初の3次元ビジョンセンサーとなる「TVS」シリーズです。

現在、人手不足で喘いでいる物流業界において、倉庫内のピッキング作業を行うロボット開発にも参入しており、活躍の場を広げています。

※ 株式会社 三次元メディア

取締役代表執行役社長 徐 剛 氏

ホームページ

<http://www.3dmedia.co.jp/index.html>





# しが新事業応援ファンド通信

株式会社 アンデケン

地域資源「古代米」を活用した 新商品開発事業



アンデケンの社屋（近江八幡本店）

## 1、アンデケンの沿革

アンデケンは 1965 年に洋菓子専門店として開業した。1988 年にチーズケーキの店アンデルセンに屋号を変更し、1998 年に近江八幡駅前に本店を構え、1999 年に株式会社アンデケンとして法人登記した。アンデケンは、ドイツ語で「思い出」の意味である。

2000 年 6 月に、現専務の島田渡氏が東京での修行を終えて入社し、シェフとして活躍。その後、2011 年に彦根のベルロード沿いに彦根店を新築し、2015 年には地域 PR 企画「よしもと 47 シェフプラン」でクールバウムがサプライズ部門で金賞を受賞するなど、着実に業績を上げてきた。

## 2、新商品開発に対するアンデケンのこだわり

事業を継続させ発展させるには、新商品の開発と販売が不可欠だという。その中で、地元の食材を使用することで話題性を出し、町全体の発展につなげたい。アンデケンだけが発展するのではなく、地元とのつながりを大切に、町全体の経済効果を出したいのだという。

こだわりは地元食材だけではない。味の追求も大変なものだ。昨年、「松の司」の松瀬酒造とコラボして開発した「松の司の酒ボンボン」を例に挙げてみよう。

ウイスキーボンボンは後味がちょっとからい。島田さんは、日本人が好きなミルクチョコと日本酒を組み合わせたいと思った。いろんなミルクチョコを食べてみて、一番おいしいものに決めた。ところが、日本酒とチョコと一緒に食べたら、からくてとてもまずかった。松の司のブランドを崩さず、おいしく仕上げる



看板商品のチーズケーキ、既存のロールケーキ

ために、お酒を適度に甘くした。また、お得感を出すために、噛んだ瞬間、お酒がなみなみと出てくるようにしたという。

試食した結果、たっぷりの日本酒を楽しんだ後でチョコレートのうまさが追いかけてくる感じで、これまでのウイスキーボンボンとは全く異なっている。また、日本酒が異なる 4 つの商品があるが、それぞれ味の違いをしっかりと感じられるのも心地良い。

## 3、開発中の古代米ロールケーキ

アンデケンがファンド事業で開発に取り組んでいるのは、地元で採れた古代米を使ったロールケーキ。チーズケーキに続く看板商品を作りたいそうだ。

古代米を使うことで、独特の色合いと、しっとり・もちもち・ふわふわ感を出すのだという。開発は試行錯誤の連続で、納得できる出来栄になるまで開発は続く。これまでのロールケーキにはない色合いと食感、どんなものになるか？とても楽しみだ。

ファンド担当 長谷川正幸



専務取締役 島田渡氏

住所 〒523-0891 近江八幡市鷹飼町 551  
TEL 0748-33-2100

## ビジネス・インキュベーション施設

### ■米原 SOHO ビジネスオフィス

〒521-0016 滋賀県米原市下多良 2-137  
文化産業交流会館 4F  
TEL : 0749-52-9200  
E-mail : maibara@soho-shiga.jp



### ■滋賀県立テクノファクトリー

〒525-0055 草津市野路東七丁目 3 番 46 号  
TEL : 077-516-0410



### ■コラボしが 21 インキュベーション

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 2-1  
コラボしが 21 4 階  
TEL : 077-511-1412  
E-mail : in@shigaplaza.or.jp



### ■草津 SOHO ビジネスオフィス

〒525-0032 滋賀県草津市大路 1-1-1  
エルティ 932 4 階  
TEL : 077-566-8121  
E-mail : kusatsu@soho-shiga.jp



## Business Incubation

創業支援 News Letter

発行：(公財) 滋賀県産業支援プラザ  
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号  
TEL : 077-511-1412 FAX : 077-511-1418

E-mail : in@shigaplaza.or.jp  
URL : http://www.shigaplaza.or.jp/

支援プラザ と検索を

©2016 公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

創業をお考えの方は、  
滋賀県産業支援プラザ  
創業支援課まで